

第2部 調査結果の概要

結婚について

1 結婚に対する考え方

(1) 結婚の有無(現状)

問1 [カード1] あなたは結婚していますか。この中から1つ選んでください。なお、この調査の中で、「結婚」とは法律に基づく結婚のことをさします。

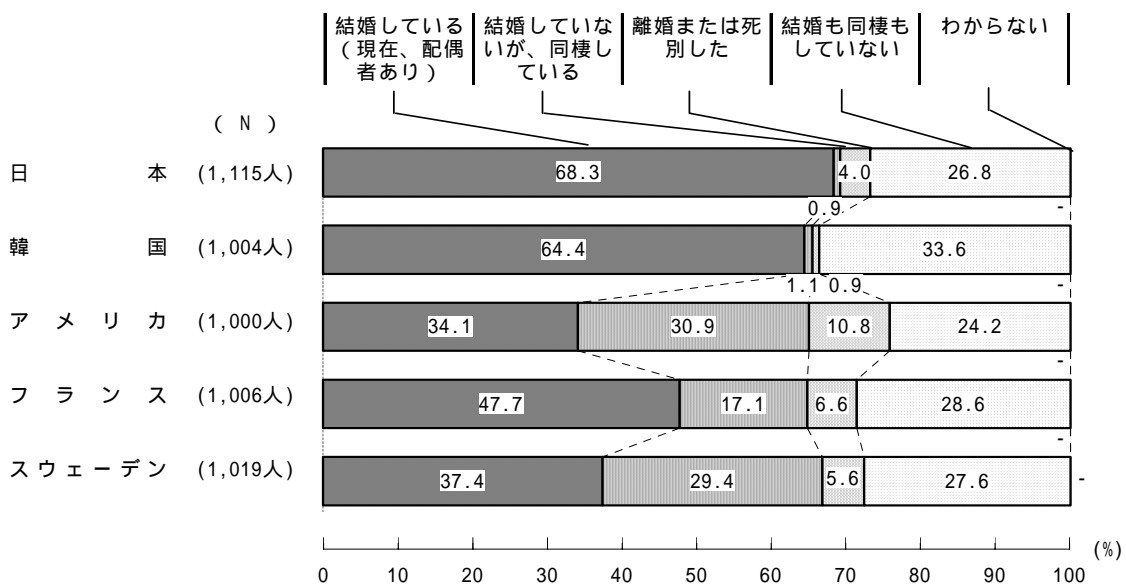
- 1 結婚している(現在、配偶者あり)
- 2 結婚していないが、同棲(特定の相手と結婚の届け出なしで一緒に生活すること)している
- 3 結婚したことはあるが、今はそうではない(離婚または死別した)
- 4 結婚も同棲もしていない
- 5 わからない

結婚しているかどうか聞いたところ、日本では、「結婚している(現在、配偶者あり)」が68.3%を占めている。

各国比較でみると、「結婚している(現在、配偶者あり)」の割合は、日本以外では、韓国(64.4%)が高い。アメリカ(30.9%)、スウェーデン(29.4%)では、「結婚していないが、同棲(特定の相手と結婚の届け出なしで一緒に生活すること)している」の割合が3割前後となっている。

「結婚している」と「同棲している」をあわせると、各国ともほぼ同じ割合となる。(図1-1)

図1-1



(2) 現在の交際関係

【問1で「4 結婚も同棲もしていない」と答えた方に】

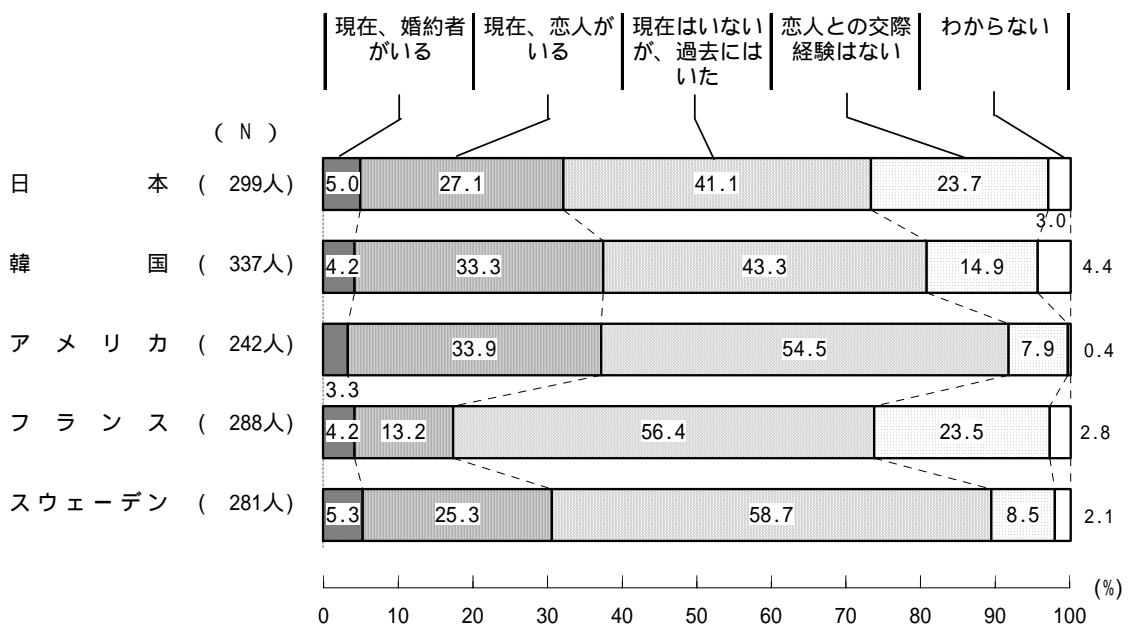
問2 [カード2] あなたには現在、親しい間柄の恋人または結婚を約束した婚約者がいますか。この中から1つ選んでください。

- 1 現在、婚約者がいる
- 2 現在、恋人がいる
- 3 現在はいないが、過去にはいた
- 4 恋人との交際経験はない
- 5 わからない

「結婚も同棲もしていない」という人に、現在、親しい間柄の恋人または結婚を約束した婚約者がいるか聞いたところ、「現在はいないが、過去にはいた」(41.1%)が最も高くなっている。

各国比較でみると、「現在はいないが、過去にはいた」は、スウェーデン(58.7%)、フランス(56.4%)、アメリカ(54.5%)で半数を超えている(図1-2)。

図1-2



(3) 初婚年齢（初めて同棲した年齢）

【問1で「1」～「3」と答えた方に】

- 問3 a) あなたが最初に結婚をしたのは何歳の時ですか。
 b) また、最初に同棲をはじめたのは何歳の時ですか。
 a) 最初の結婚〔 〕歳 結婚したことはない
 b) 最初の同棲〔 〕歳 同棲したことはない

結婚または同棲の経験者に、最初に結婚をしたのは何歳の時か、また、最初に同棲をはじめたのは何歳の時かそれぞれ聞いたところ、日本では、初婚年齢は「25～29歳」(44.7%)が最も高く、「20～24歳」(33.6%)がこれに続いている。(図1-3)

また、同棲については、「同棲したことはない」(85.8%)が圧倒的に高い。(図1-4)

各国比較でみると、韓国では、初婚年齢は「25～29歳」(54.8%)が日本以上に高く、同棲も「同棲したことはない」(93.1%)が日本以上に高くなっている。(図1-3, 4)

スウェーデンも、初婚年齢は「25～29歳」が最も高くなっているが、アメリカとフランスでは、「20～24歳」が最も高くなっている。(図1-3)

はじめて同棲した年齢は、アメリカ、スウェーデン、フランスでは、「20～24歳」が最も高くなっている。(図1-4)

図1-3

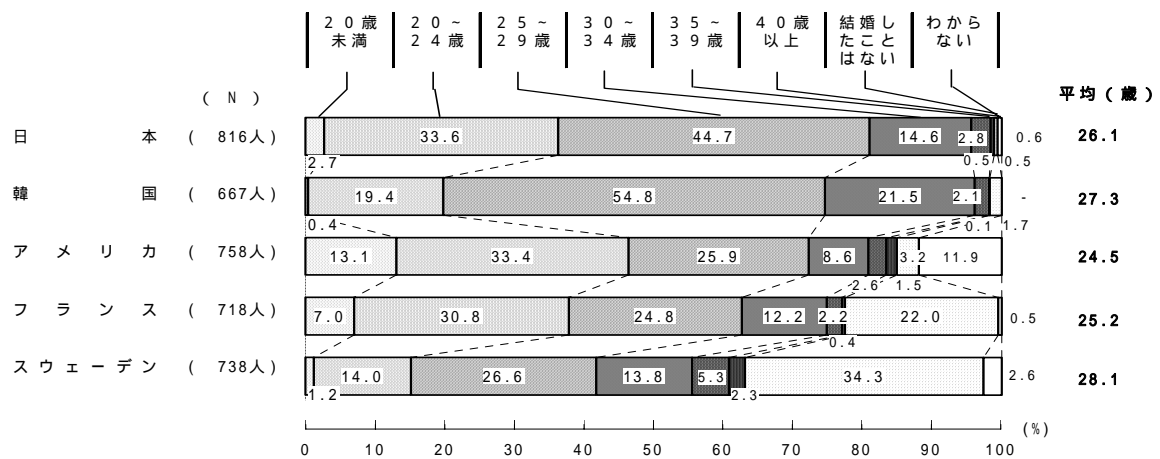
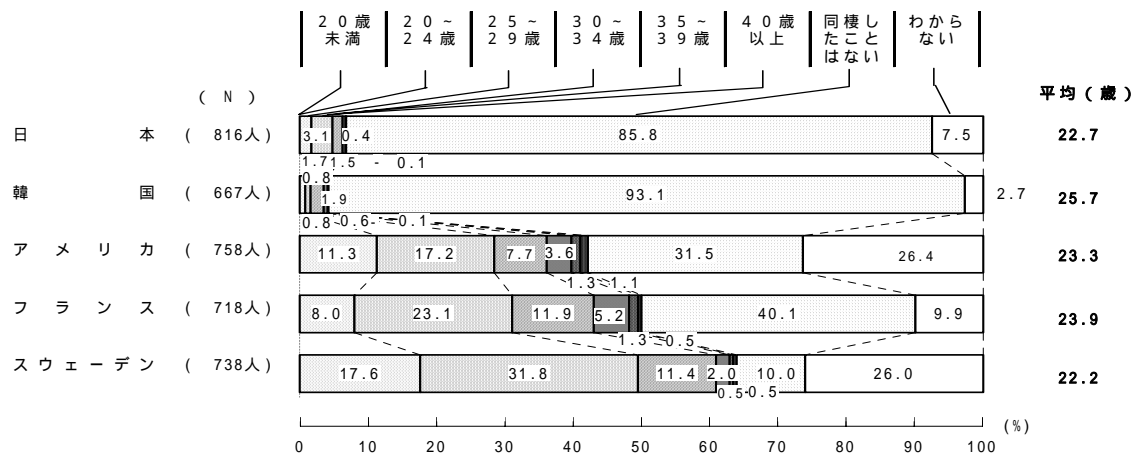


図1-4



(4) 結婚に対する考え方

【全員に】

問4 [カード3] 人生における結婚や同棲の必要性に対する以下のような考え方のうち、あなたの意見にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

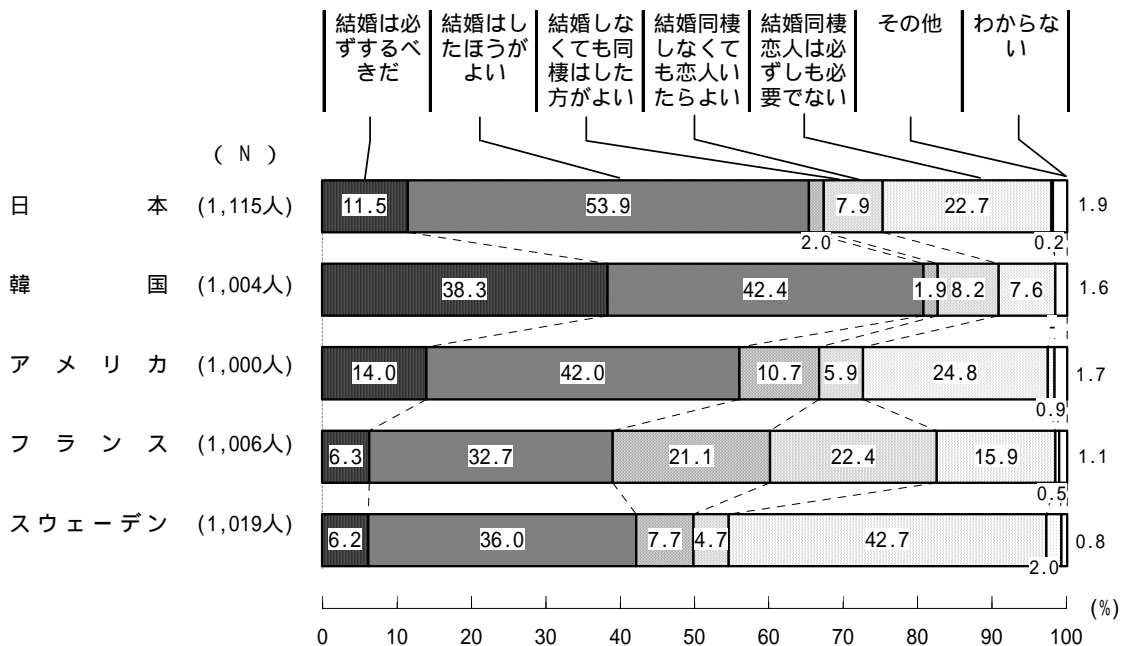
- 1 結婚は必ずすべきだ
- 2 結婚はしたほうがよい
- 3 結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい
- 4 結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい
- 5 結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない
- 6 その他(具体的に)
- 7 わからない

人生における結婚や同棲の必要性に対する考え方について聞いたところ、日本では、「結婚はしたほうがよい」(53.9%)が最も高く、「結婚は必ずすべきだ」(11.5%)とあわせて65.4%は結婚に肯定的である。

各国比較でみると、結婚に対する肯定的な意見(「結婚は必ずすべきだ」+「結婚はしたほうがよい」)が過半数を占めている。特に、韓国では、「結婚は必ずすべきだ」が約4割を占めている。スウェーデンでは、結婚に対する肯定的な意見と、「必ずしも必要でない」とする意見がほぼ同じ割合となっている。

フランスでは、「結婚しなくても同棲はした方がよい」、「恋人がいればよい」など多様な意見が見られる。(図1-5)

図1-5



(5) 結婚している人としていない人の幸せ

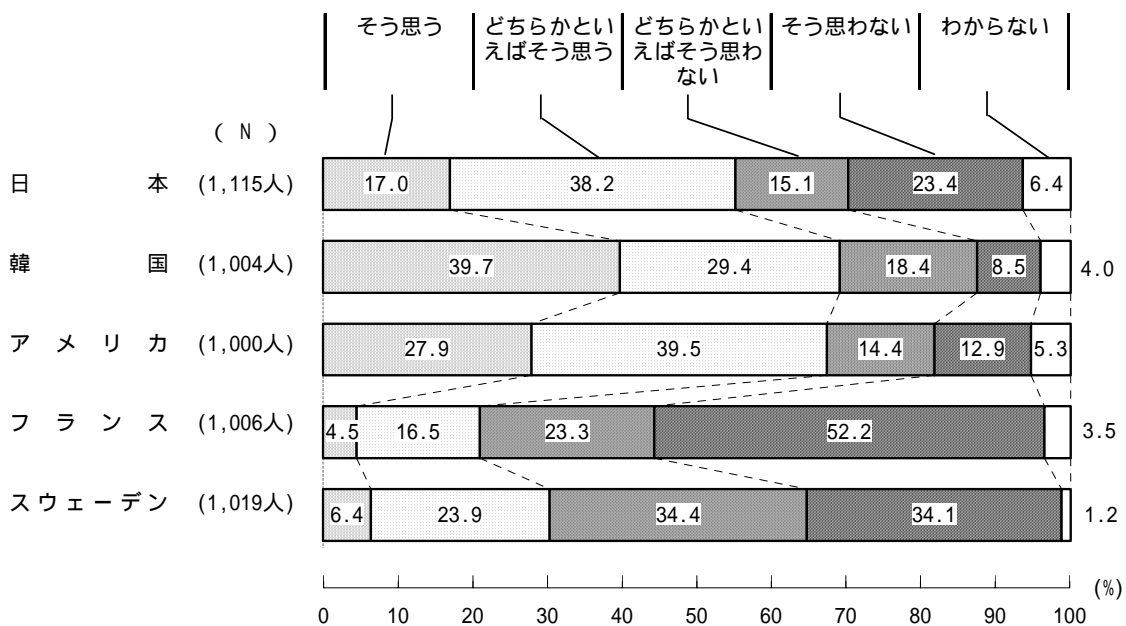
問5 [カード4] 一般的にいて、結婚している人は、結婚していない人より幸せだと思いますか。この中から、あなたの意見にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

一般的にいて、結婚している人は、結婚していない人より幸せだと思うか聞いたところ、「そう思う」(17.0%)と「どちらかといえばそう思う」(38.2%)を合わせた『そう思う』は55.2%を占め、「どちらかといえばそう思わない」(15.1%)と「そう思わない」(23.4%)を合わせた『そう思わない』(38.5%)を上回っている。

各国比較でみると、『そう思う』は韓国(69.1%)、アメリカ(67.4%)で7割近く、『そう思わない』はスウェーデン(68.5%)、フランス(75.5%)で約7割となっている(図1-6)。

図1-6



2 結婚生活の条件

結婚生活や同棲生活をうまくやっていく上で大切なこと

問6 [カード5] 結婚生活を円滑に送っていく上で、大切だと思われることを、この中から3つまで選んでください。(3M.A.)

- 1 夫または妻に対して誠実であること
- 2 十分な収入があること
- 3 同じような生活環境の中で育ってきたこと
- 4 自分または配偶者の両親と別に暮らしていること
- 5 自分または配偶者の両親と一緒に暮らしていること
- 6 同じ信仰を持っていること
- 7 性的魅力を保ち続けていること
- 8 家事・育児を分担しあうこと
- 9 子どもを持つこと
- 10 子どもが健康に成長すること
- 11 共通の趣味や興味をもっていること
- 12 夫は働いて収入を稼ぎ、妻は家事・育児を担当すること
- 13 夫と妻双方が仕事をもつこと
- 14 その他(具体的に)
- 15 特に大切なことはない
- 16 わからない

結婚生活を円滑に送っていく上で、大切だと思われることを挙げてもらったところ、「夫または妻に対して誠実であること」が56.0%で最も高く、次いで「十分な収入があること」(46.2%)、「子どもが健康に成長すること」(38.0%)、「家事・育児を分担しあうこと」(33.5%)などとなっている。

各国比較でみると、各国いずれも「夫または妻に対して誠実であること」が最も多くなっている(表1-1)。

表1-1

(%)

国名	順位	1	2	3	4	5
日本	1115	夫または妻に対して誠実であること 56.0	十分な収入があること 46.2	子どもが健康に成長すること 38.0	家事・育児を分担しあうこと 33.5	子どもを持つこと 29.1
韓国	1004	夫または妻に対して誠実であること 84.3	十分な収入があること 66.2	子どもが健康に成長すること 37.0	子どもを持つこと 23.4	共通の趣味や興味をもっていること 21.8
アメリカ	1000	夫または妻に対して誠実であること 83.3	十分な収入があること 39.7	性的魅力を保ち続けていること 35.5	共通の趣味や興味をもっていること 25.2	家事・育児を分担しあうこと 20.6
フランス	1006	夫または妻に対して誠実であること 77.3	性的魅力を保ち続けていること 40.3	共通の趣味や興味をもっていること 31.0	子どもを持つこと 28.2	家事・育児を分担しあうこと 22.8
スウェーデン	1019	夫または妻に対して誠実であること 89.6	家事・育児を分担しあうこと 66.9	共通の趣味や興味をもっていること 27.1	性的魅力を保ち続けていること 19.4	十分な収入があること 17.6

3 結婚・独身の理由

(1) 最初の結婚に踏み切ったきっかけ

【問1で「1」～「3」と答えた、結婚をしたことがある方、または問2で「1」と答えた婚約している方に】
問7 [カード6] あなたが最初の結婚(または婚約)に踏み切ったきっかけとして、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分にもっともあてはまると思われる理由を、3つまで選んでください。

(3 M.A.)

- 1 ある程度の年齢になったから
- 2 親や家族に勧められたから
- 3 お互いに信頼できると思ったから
- 4 情熱的な気持ちになったから
- 5 相手が積極的だったから
- 6 周りが結婚しているから
- 7 社会的な信用を得られると思ったから
- 8 妊娠したから
- 9 子どもがほしかったから
- 10 すでにいる子どもの将来を考えたから
- 11 税金や社会保障に有利になるから
- 12 恋人や同棲相手との関係を安定させたいから
- 13 経済的に余裕ができたから
- 14 その他(具体的に)
- 15 特にない
- 16 わからない

結婚経験者、婚約者に、最初の結婚(または婚約)に踏み切ったきっかけを聞いたところ、「お互いに信頼できると思ったから」(65.5%)が最も高く、「ある程度の年齢になったから」(45.2%)がこれに続いている。

各国比較でみると、日本同様「お互いに信頼できると思ったから」が最も高いのは、アメリカ(42.2%)とスウェーデン(53.4%)である(表1-2)。

表1-2

(%)

順位 国名	1	2	3	4	5
日本 831	お互いに信頼できると思ったから 65.5	ある程度の年齢になったから 45.2	子どもがほしかったから 16.4	情熱的な気持ちになったから 14.0	恋人や同棲相手との関係の安定 12.8
韓国 681	ある程度の年齢になったから 68.4	お互いに信頼できると思ったから 64.6	親や家族に勧められたから 37.3	相手が積極的だったから 27.9	周りが結婚しているから 20.6
アメリカ 766	お互いに信頼できると思ったから 42.2	恋人や同棲相手との関係の安定 41.9	情熱的な気持ちになったから 27.2	子どもがほしかったから 21.3	相手が積極的だったから 16.3
フランス 730	情熱的な気持ちになったから 40.0	恋人や同棲相手との関係の安定 38.8	お互いに信頼できると思ったから 38.5	子どもがほしかったから 34.5	ある程度の年齢になったから 14.9
スウェーデン 753	お互いに信頼できると思ったから 53.4	恋人や同棲相手との関係の安定 42.5	情熱的な気持ちになったから 26.4	すでにいる子どもの将来考えたから 14.9	相手が積極的だったから 13.4

(2) 現在独身でいる理由

【問2で「2」～「4」と答えた未婚の方に】

問8 [カード7] 現在結婚していない理由を、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分にもっともあてはまると思われる理由を、3つまで選んでください。(3M.A.)

- 1 結婚するにはまだ若すぎるから
- 2 結婚する必要性を感じないから
- 3 同棲のままで十分だから
- 4 今は、仕事(または学業)に打ち込みたいから
- 5 今は、趣味や娯楽を楽しみたいから
- 6 独身の自由さや気楽さを失いたくないから
- 7 適当な相手にまだめぐり会わないから
- 8 異性とうまくつき合えないから
- 9 経済的に余裕がないから
- 10 結婚生活のための住居のめどがたたないから
- 11 親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から
- 12 一生、結婚するつもりはないから
- 13 その他(具体的に)
- 14 特にない
- 15 わからない

未婚者に、現在結婚していない理由を聞いたところ、「適当な相手にまだめぐり会わないから」(49.1%)で最も高く、「経済的に余裕がないから」(33.5%)が続いている。

各国比較でも、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が高く、スウェーデンでは70.4%と、圧倒的に高い割合となっている(表1-3)。

表1-3

(%)

順位 国名	1	2	3	4	5
日本 275	適当な相手にまだめぐり会わない 49.1	経済的に余裕がないから 33.5	今は、仕事や学業に打ち込みたいから 29.1	独身の自由さを失いたくないから 26.2	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから 25.5
韓国 308	結婚するにはまだ若すぎるから 60.1	今は、仕事や学業に打ち込みたいから 43.3	経済的に余裕がないから 41.2	適当な相手にまだめぐり会わない 41.0	結婚する必要性を感じないから 27.7
アメリカ 233	適当な相手にまだめぐり会わない 54.1	結婚する必要性を感じないから 32.6	結婚するにはまだ若すぎるから 24.5	今は、仕事や学業に打ち込みたいから 20.6	経済的に余裕がないから 20.6
フランス 268	結婚する必要性を感じないから 39.7	適当な相手にまだめぐり会わない 37.0	結婚するにはまだ若すぎるから 33.1	独身の自由さを失いたくないから 24.5	今は、仕事や学業に打ち込みたいから 24.2
スウェーデン 260	適当な相手にまだめぐり会わない 70.4	結婚する必要性を感じないから 42.7	今は、仕事や学業に打ち込みたいから 20.8	結婚するにはまだ若すぎるから 20.4	独身の自由さを失いたくないから 11.2

4 離婚への意識

離婚に対する考え方

【全員に】

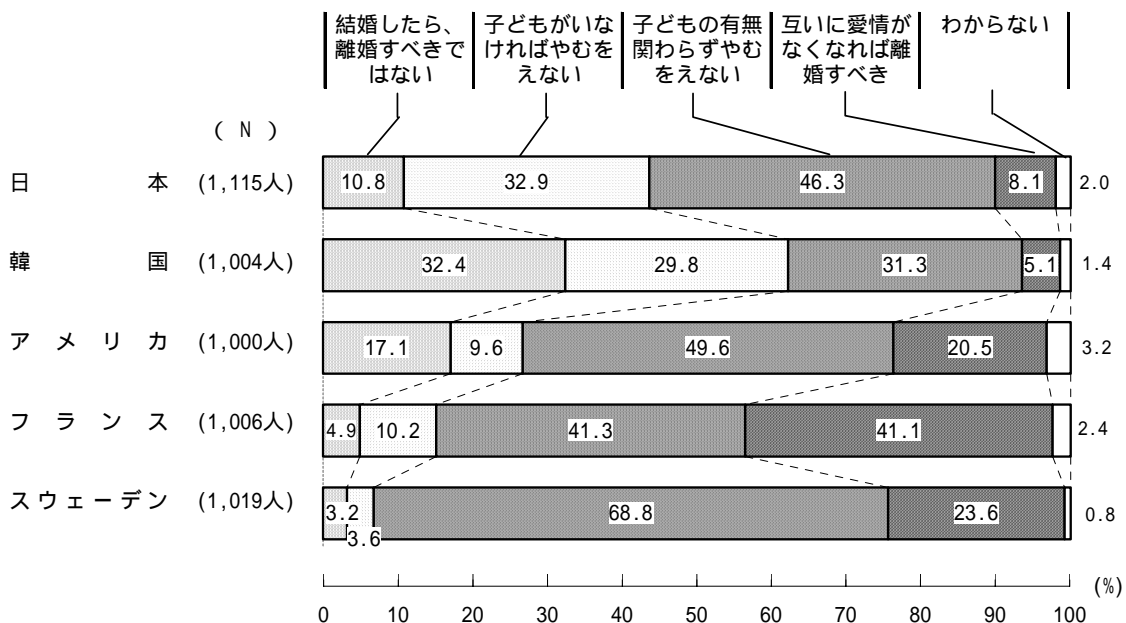
問9 [カード8] あなたは、離婚についてどうお考えですか。この中からあなたの考えにもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- 1 いったん結婚したら、いかなる理由があっても離婚すべきではない
- 2 子どもがいれば離婚すべきではないが、いなければ事情によってはやむをえない
- 3 子どもの有無にかかわらず、事情によっては離婚もやむをえない
- 4 互いに愛情がなくなれば、離婚すべきである
- 5 わからない

離婚について、どのように考えるか聞いたところ、「子どもの有無にかかわらず、事情によっては離婚もやむをえない」が46.3%と最も高く、「子どもがいれば離婚すべきではないが、いなければ事情によってはやむをえない」(32.9%)が続いている。

各国比較でみると、韓国を除く各国とも「子どもの有無にかかわらず、事情によっては離婚もやむをえない」が多いが、韓国では、「いったん結婚したら、いかなる理由があっても離婚すべきではない」(32.4%)、「子どもの有無にかかわらず、事情によっては離婚もやむをえない」(31.3%)、「子どもがいれば離婚すべきではないが、いなければ事情によってはやむをえない」(29.8%)と考え方が分かれている(図1-7)。

図1-7



5 同棲の経験の有無

問10 [カード9] あなたは、これまでに同棲を経験したことがありますか。この中から1つだけ選んでください。

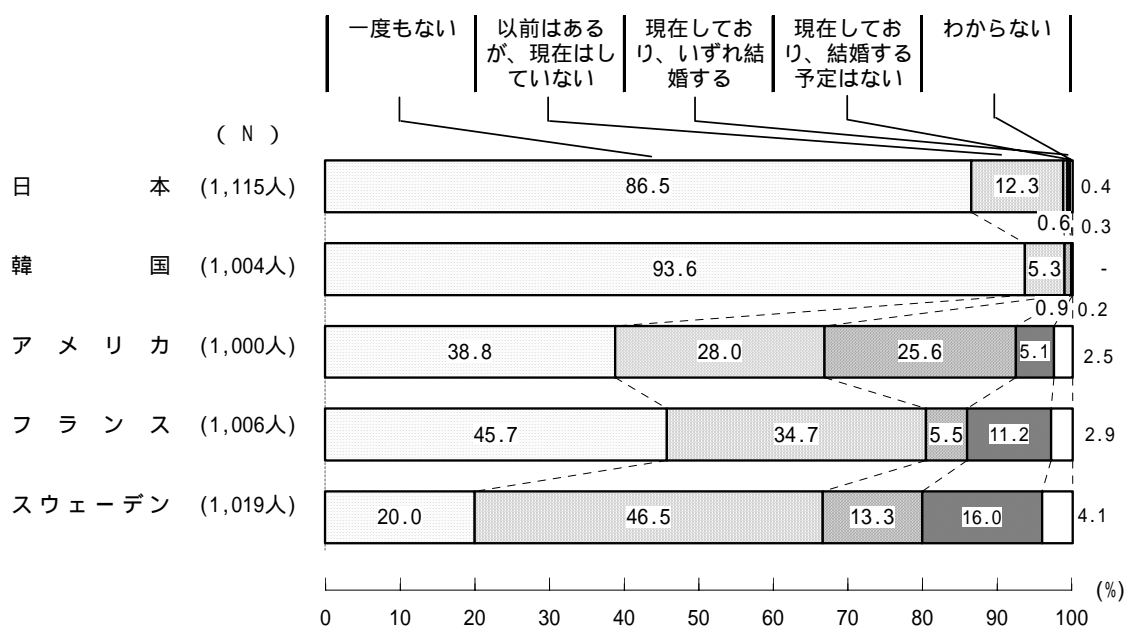
- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 一度もない | 4 現在しており、結婚する予定はない |
| 2 以前はあるが、現在はしていない | 5 わからない |
| 3 現在しており、いずれ結婚するつもり | |

これまでに同棲を経験したことがあるか聞いたところ、日本では、「一度もない」が86.5%と最も高くなっている。

各国比較でみると、韓国は日本よりもさらに「一度もない」(93.6%)が高くなっている。

一方、同棲経験が高いのは、スウェーデン(75.9%)、アメリカ(58.7%)、フランス(51.4%)の順となっている。(図1-8)

図1-8



6 結婚と自立について

結婚生活を始める際の収入

問 11〔カード 10〕今日の社会で結婚生活を始める際には、二人でいくら位の月収(税・社会保険料控除後の手取り収入)が必要だと思いますか。この中から1つだけ選んでください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 10万円未満 | 6 50万円以上70万円未満 |
| 2 10万円以上20万円未満 | 7 70万円以上100万円未満 |
| 3 20万円以上30万円未満 | 8 100万円以上 |
| 4 30万円以上40万円未満 | 9 特に収入は関係ない |
| 5 40万円以上50万円未満 | 10 わからない |

今日の社会で結婚生活を始める際には、二人でいくら位の月収(税・社会保険料控除後の手取り収入)が必要か聞いたところ、日本では、「20万円以上30万円未満」(45.5%)が最も高くなっている。

各国比較でみると、韓国では、日本同様「20万円以上30万円未満」が最も高く、アメリカでは「50万円以上70万円未満」(26.5%)、スウェーデンでは「30万円以上40万円未満」(35.7%)がそれぞれ最も高くなっている。

フランスでは、「特に収入は関係ない」(24.9%)が最も高くなっている。(表1-4)

表 1 - 4

		(%)									
	全 体	10万円未満	10万円以上20万円未満	20万円以上30万円未満	30万円以上40万円未満	40万円以上50万円未満	50万円以上70万円未満	70万円以上100万円未満	100万円以上	特に収入は関係ない	わからない
〔国 別〕	(N)										
日 本	1,115	-	6.9	45.5	32.4	9.9	3.1	0.4	0.3	0.5	1.0
韓 国	1,004	0.5	16.1	37.2	29.4	10.4	4.0	0.6	0.1	1.7	-
ア メ リ カ	1,000	0.2	3.1	11.1	18.1	18.4	26.5	9.3	5.8	2.2	5.3
フ ラ ンス	1,006	0.2	4.1	23.3	21.8	12.5	5.2	2.6	0.4	24.9	5.1
ス ウ ェ ー デ ン	1,019	0.3	4.6	20.1	35.7	25.5	10.0	1.5	0.8	0.3	1.2

7 結婚相手や同棲相手との出会いの場

結婚相手や同棲相手との出会いのきっかけ

【問1で「1」～「3」と答えた方に】

問12〔カード11〕結婚相手や同棲相手とはどのようなきっかけで出会いましたか。複数の結婚経験がある場合は、最初の結婚について、また結婚経験はないが同棲経験がある場合は、最初の同棲について、この中からもっともあてはまるものを1つだけ選んでください。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 学校で | 9 友人やきょうだいを通じて |
| 2 職場や仕事の関係で | 10 親・親せきの紹介で |
| 3 幼なじみ・隣人関係 | 11 上司（仕事の関係者）の紹介で |
| 4 学校以外のサークル・クラブ・習い事で | 12 結婚情報サービス業を通じて |
| 5 街なかや旅先で | 13 その他（具体的に） |
| 6 学生時代のアルバイト先で | 14 特にない |
| 7 同郷ということで | 15 わからない |
| 8 インターネットで | |

結婚又は同棲経験者に、結婚相手や同棲相手とはどのようなきっかけで出会ったか聞いたところ、「職場や仕事の関係で」（38.7%）が最も高く、次いで「友人やきょうだいを通じて」（25.0%）などとなっている。

各国比較でみると、「職場や仕事の関係で」が最も多いのは日本と韓国（26.9%）で、他は「友人やきょうだいを通じて」が最も多くなっている（表1-5）。

表1-5

	該当数	学校で	職場や仕事の関係で	幼なじみ・隣人関係	学校以外のサークル・クラブなどで	街なかや旅先で	学生時代のアルバイト先で	同郷ということで	インターネットで	友人やきょうだいを通じて	親・親せきの紹介で	上司（仕事の関係者）の紹介で	結婚情報サービス業を通じて	その他	特にない	わからない
〔国別〕	(N)															
日本	816	7.5	38.7	3.4	6.3	4.8	2.6	0.6	0.5	25.0	6.5	1.3	0.5	0.6	1.1	0.6
韓国	667	6.0	26.9	2.3	5.1	3.2	0.7	0.9	0.9	26.4	20.6	1.4	0.3	1.5	2.7	1.1
アメリカ	758	18.3	16.2	5.1	9.9	2.8	2.2	10.3	0.8	24.9	3.8	0.7	-	4.2	-	0.7
フランス	718	5.8	9.8	11.8	7.2	7.4	1.1	8.7	1.3	24.2	3.3	0.4	-	13.4	4.6	0.9
スウェーデン	738	11.2	13.4	3.9	11.5	6.1	0.3	8.0	2.7	27.4	1.4	-	-	12.5	1.2	0.4

8 10代のときの男女交際に関する親の考え

10代のときの男女交際に関する親の考えについて

【全員に】

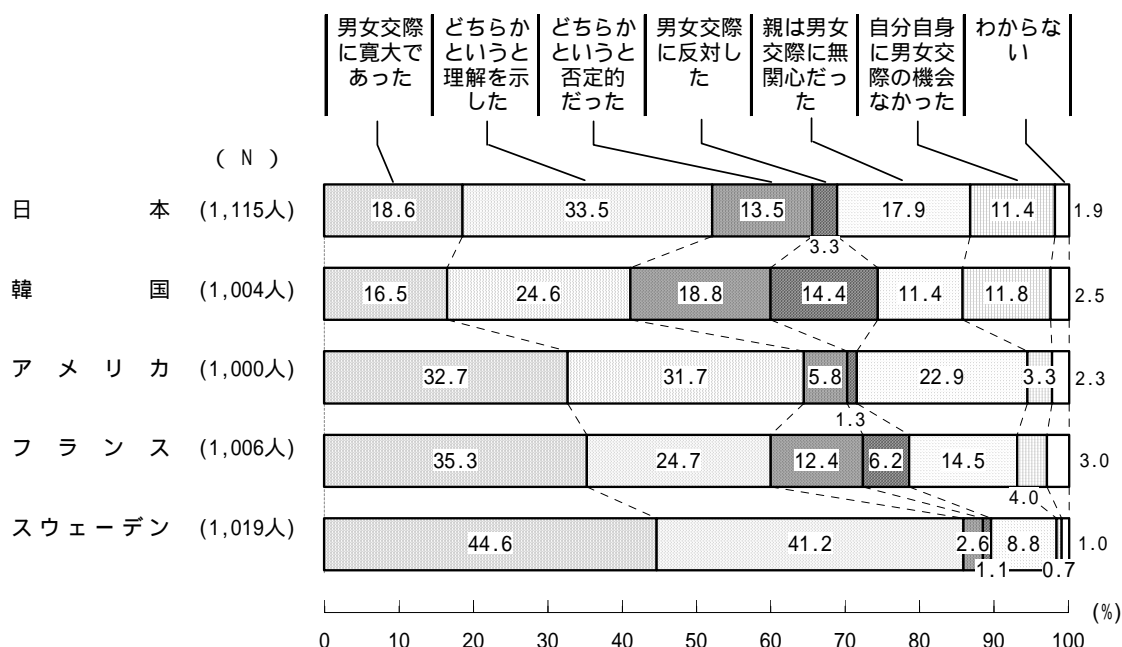
問 13〔カード 12〕あなたが中学生・高校生のときの男女交際について、あなたの親はどのような態度で接していましたか。あてはまるもの1つだけ選んでください。

- 1 男女交際に寛大であった
- 2 どちらかというとな男女交際について理解を示した
- 3 どちらかというとな男女交際について否定的だった
- 4 男女交際に反対した
- 5 親は男女交際に無関心だった
- 6 自分自身に男女交際の機会がなかった
- 7 わからない

中学生・高校生のときの男女交際について、自分の親がどのような態度で接していたか聞いたところ、「どちらかというとな男女交際について理解を示した」(33.5%)、「男女交際に寛大であった」(18.6%)と肯定的な態度の割合が高くなっている。

各国比較でみると、各国とも肯定的な態度の割合が高くなっているが、韓国では「どちらかというとな男女交際について否定的だった」(18.8%)、「男女交際に反対した」(14.4%)がそれぞれ他の国よりも高くなっている(図1-9)。

図 1 - 9



出産について

1 子どもを持つことの方

(1) 子どもを持つことに対する考え方

問 14 [カード 13] あなたは、自分の子どもをもつことに対して、どのように考えていますか。すでにお子さんがいらっしゃる方は、子どもをもつ前にどのように考えていたかということについてお答えください。次の中から重要なものを、3つまで選んでください。(3 M.A.)

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1 子どもをもつことは自然なことである | 11 自分の自由な時間が制約される |
| 2 自分の子孫を残すことができる | 12 経済的な負担が増える |
| 3 子どもをもつことで周囲から認められる | 13 身体的・精神的な負担が重くなる |
| 4 子どもがいると生活が楽しく豊かになる | 14 その他(具体的に) |
| 5 子どもは老後の支えになる | 15 特にない |
| 6 子どもは将来の社会の担い手となる | 16 わからない |
| 7 子どもは夫婦関係を安定させる | |
| 8 好きな人の子どもをもちたいから、子どもをもつ | |
| 9 配偶者や親など周囲が望むから、子どもをもつ | |
| 10 自分の家の家名を残すことができる | |

自分の子どもをもつことに対して、どのように考えているか聞いたところ、日本では、「子どもをもつことは自然なことである」(68.5%)が最も高く、次いで「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」(59.7%)が続いている。

各国比較でみると、アメリカ、フランスでは、日本同様「子どもをもつことは自然なことである」が最も高く、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が2番目に高くなっている。

韓国でも、「子どもをもつことは自然なことである」が最も高くなっているが、2番目に高い項目は、「子どもは夫婦関係を安定させる」である。

スウェーデンでは「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が最も高く、次いで「子どもをもつことは自然なことである」の順となっている。(表2-1)

表2-1

順位		(%)				
国名		1	2	3	4	5
日 本	1115	子どももつことは自然なことである 68.5	子どもがいると生活が楽しくなる 59.7	好きな人の子どももちたいからもつ 21.9	子どもは夫婦関係を安定させる 21.5	自分の子孫を残すことができる 21.2
韓 国	1004	子どももつことは自然なことである 85.1	子どもは夫婦関係を安定させる 46.1	子どもがいると生活が楽しくなる 43.5	自分の子孫を残すことができる 22.6	経済的な負担が増える 19.9
ア メ リ カ	1000	子どももつことは自然なことである 63.0	子どもがいると生活が楽しくなる 60.6	好きな人の子どももちたいからもつ 35.4	自分の子孫を残すことができる 12.7	子どもは老後の支えになる 10.0
フ ラ ンス	1006	子どももつことは自然なことである 71.6	子どもがいると生活が楽しくなる 58.6	好きな人の子どももちたいからもつ 47.2	自分の子孫を残すことができる 22.7	子どもは夫婦関係を安定させる 15.2
スウェーデン	1019	子どもがいると生活が楽しくなる 76.8	子どももつことは自然なことである 58.4	好きな人の子どももちたいからもつ 54.1	子どもは老後の支えになる 13.6	子どもは将来の社会の担い手となる 10.5

(2) 結婚したら子どもを持つべきか

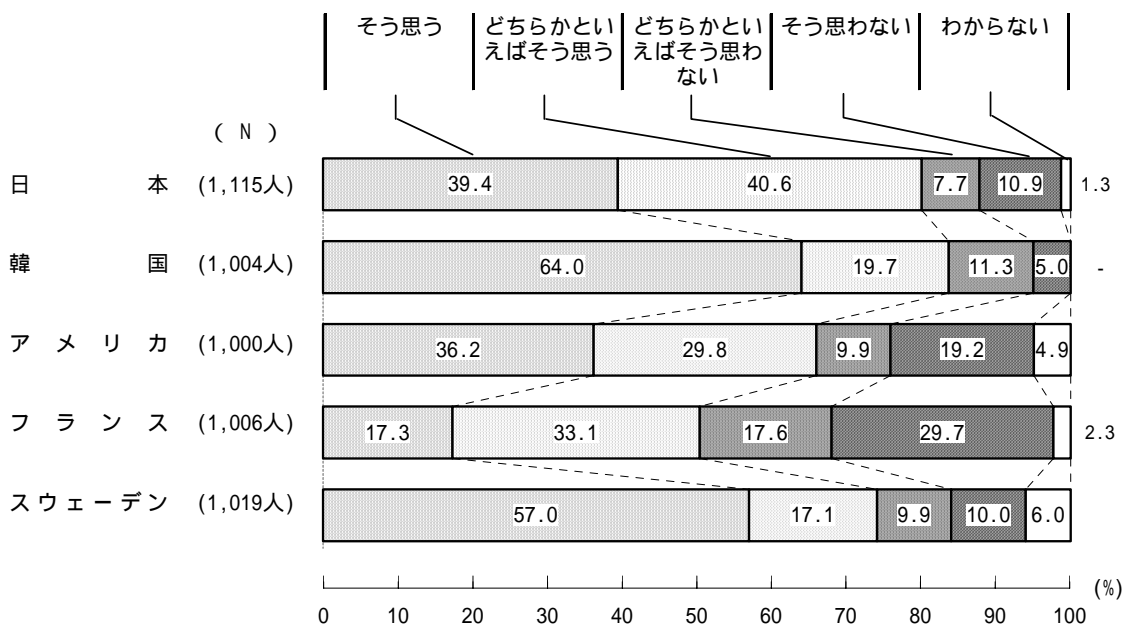
問 15 [カード 14] あなたは、結婚したら自分自身の子どもは必ずもつべきだと思いますか。この中から1つだけ選んでください。

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

結婚したら自分自身の子どもは必ずもつべきか聞いたところ、「そう思う」(39.4%)と「どちらかといえばそう思う」(40.6%)を合わせた『そう思う』は80.0%を占め、「どちらかといえばそう思わない」(7.7%)と「そう思わない」(10.9%)を合わせた『そう思わない』(18.7%)を大きく上回っている。

各国比較でみると、各国とも『そう思う』が『そう思わない』を上回っているが、フランスでは両者が拮抗している(図2-1)。

図 2 - 1



2 子どもの人数

(1) ほしい子どもの数

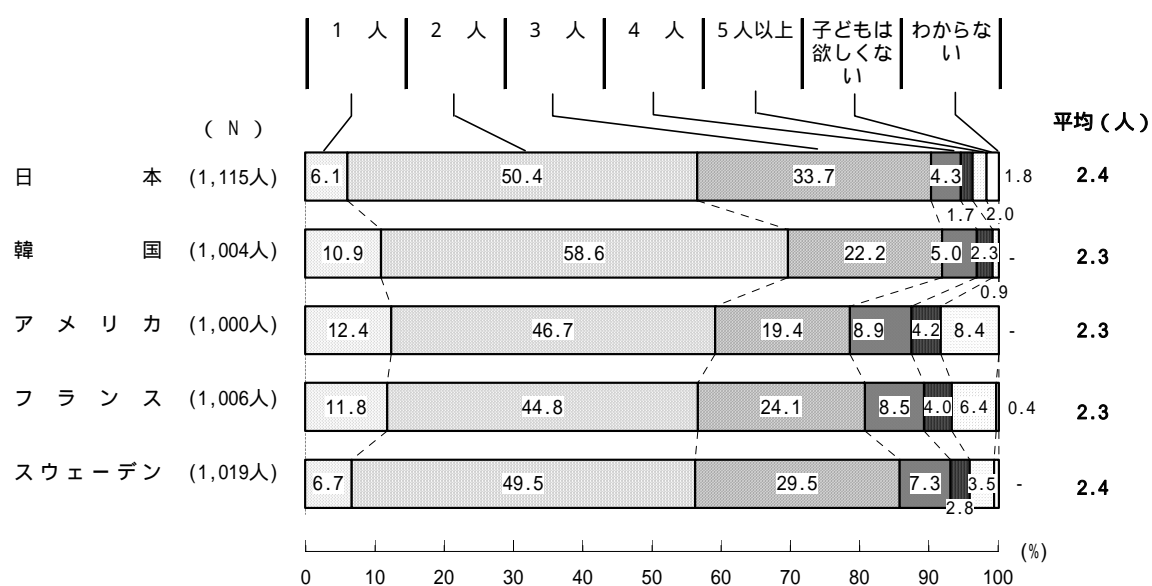
問16 あなたは、全部で何人の子どもを欲しいですか。すでにお子さんがある場合には、そのお子さんも含めてお答えください。

人

全部で何人の子どもが欲しいか聞いたところ、日本では、「2人」が50.4%と最も高く、次いで「3人」(33.7%)、「1人」(6.1%)、「4人」(4.3%)となっている。

各国比較でも、「2人」が最も多く、次いで「3人」の順となっている。(図2-2)

図2-2



(2) 現在の子どもの数

問17 実際のあなたのお子さん（養子を含む）の数は何人ですか。

人 子どもはいない

【現在、子どものいる方に】

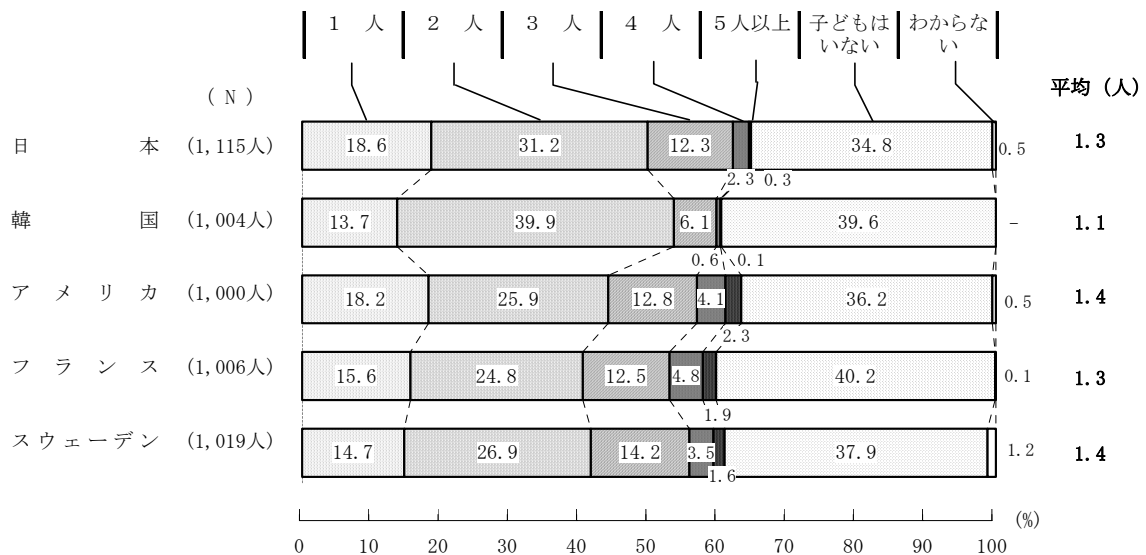
S Q お子さんの年齢はおいくつですか。一番上のお子さんから、すべてお答えください。

1 第1子 [] 歳
 2 第2子 [] 歳
 3 第3子 [] 歳
 4 第4子 [] 歳
 5 第5子 [] 歳
 6 第6子 [] 歳

養子を含む実際の子どもの数を聞いたところ、日本では、「子どもはいない」が**34.8%**と最も高く、次いで「2人」(31.2%)、「1人」(18.6%)、「3人」(12.3%)となっている。

各国比較でみると、フランス、スウェーデン、アメリカでは、日本同様「子どもはいない」が最も高く、次いで「2人」が高くなっているが、韓国では、「2人」(39.9%)と「子どもはいない」(39.6%)とほぼ同じ割合となっている。(図2-3)

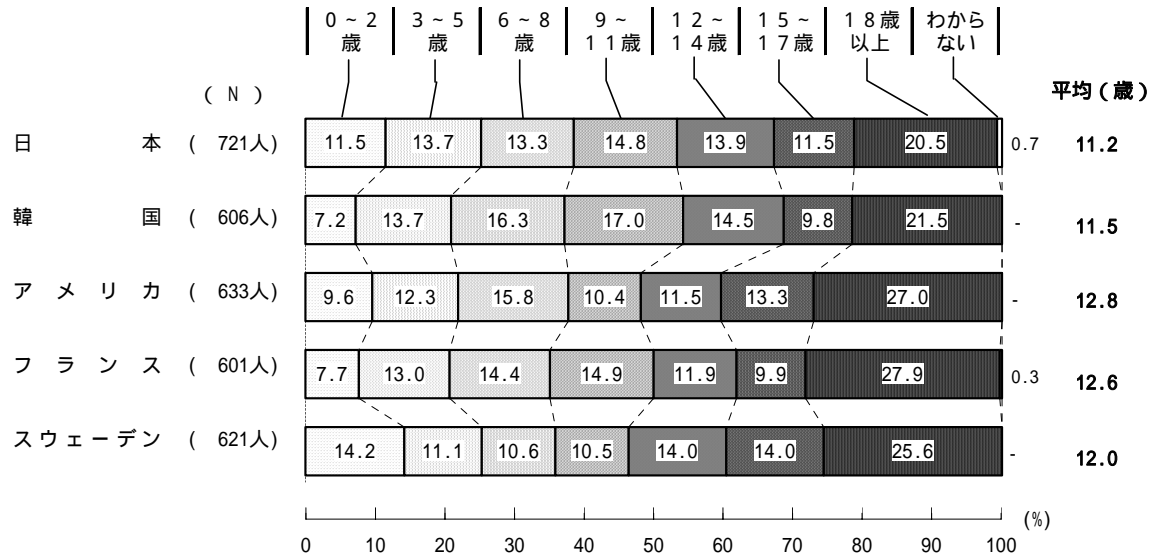
図2-3



第1子では、子どもの年齢は「18歳以上」(20.5%)が最も高い。

各国比較でみると、「18歳以上」はフランス(27.9%)、アメリカ(27.0%)で3割近くを占めている(図2-4)。

図2-4



(3) さらに子どもを増やしたいか

【問16で答えた子どもの数よりも、問17で答えた実際の子どもの数が少ない方に】

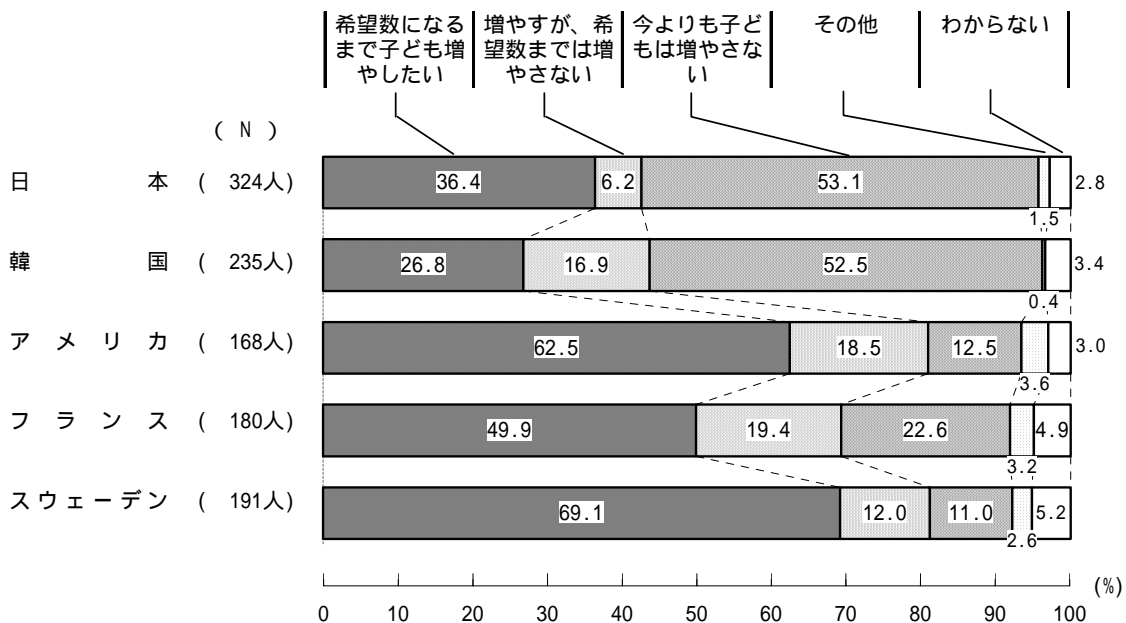
問18〔カード15〕あなたは、今よりも、子どもを増やしたいと思いますか。この中から1つだけ選んでください。

- 1 希望する子ども数になるまで子どもを増やしたい
- 2 今よりも子どもは増やすが、希望する子ども数になるまでは増やさない、または、増やせない
- 3 今よりも子どもは増やさない、または、増やせない
- 4 その他(具体的に)
- 5 わからない

ほしい子どもの数より実際の子どもの数が少ない人に、今よりも、子どもを増やしたいと思うか聞いたところ、日本では、「今よりも子どもは増やさない、または、増やせない」(53.1%)が最も高くなっている。

各国比較でみると、日本と同じく「今よりも子どもは増やさない、または、増やせない」が5割を超えているのは、韓国のみ(52.5%)で、他は「希望する子ども数になるまで子どもを増やしたい」とする割合が最も高くなっている。(図2-5)

図2-5



(4) さらに子どもを増やしたくない理由

【問18で「2」または「3」と答えた方に】

問19 [カード16] 希望する数まで、または今よりも子どもを増やさない、または、増やせない理由は何ですか。この中から当てはまるものを、いくつでも選んでください。(M.A.)

- 1 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
- 2 家が狭いから
- 3 自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから
- 4 子どもがのびのび育つ社会環境でないから
- 5 自分や夫婦の生活を大切にしたいから
- 6 自分または配偶者が高年齢で、産むのがいやだから
- 7 これ以上、自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから
- 8 妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから
- 9 健康上の理由から
- 10 欲しいけれども妊娠しないから
- 11 配偶者の家事・育児への協力が得られないから
- 12 配偶者が望まないから
- 13 その他(具体的に)
- 14 特にない
- 15 わからない

希望する数まで、または今よりも子どもを増やさない、または、増やせない理由は何か聞いたところ、日本では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(56.3%)が最も高く、次いで「自分または配偶者が高年齢で、産むのがいやだから」(31.8%)などとなっている。

各国比較でみると、韓国では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(68.2%)が7割近くを占め、圧倒的に高くなっている。

アメリカでも「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(30.8%)が最も高いが、2位の「健康上の理由から」(25.0%)との差は少ない。

スウェーデンとフランスでは、「高年齢で、産むのがいやだから」、「健康上の理由から」、「配偶者が望まないから」が上位を占めており、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は低くなっている。(表2-2)

表2-2

(%)

国名	順位	1	2	3	4	5
日本	192	子育てや教育にお金がかかりすぎる 56.3	高年齢で、産むのがいやだから 31.8	健康上の理由から 15.1	自分の仕事に差し支えるから 13.5	家が狭いから 10.9
韓国	163	子育てや教育にお金がかかりすぎる 68.2	高年齢で、産むのがいやだから 32.2	子どもがのびのび育つ社会でない 16.6	これ以上育児の負担に耐えられない 16.3	自分の仕事に差し支えるから 13.7
アメリカ	52	子育てや教育にお金がかかりすぎる 30.8	健康上の理由から 25.0	欲しいけれども妊娠しないから 19.2	配偶者が望まないから 17.3	高年齢で、産むのがいやだから 15.4
フランス	76	健康上の理由から 31.2	配偶者が望まないから 23.1	高年齢で、産むのがいやだから 19.8	子育てや教育にお金がかかりすぎる 13.3	その他 10.5
スウェーデン	44	高年齢で、産むのがいやだから 40.9	健康上の理由から 20.5	配偶者が望まないから 20.5	これ以上育児の負担に耐えられない 13.6	欲しいけれども妊娠しないから 13.6

(5) 妊娠・出産について思いや考えについて

【子どもがいる方に】

問 20 [カード 17] (女性に) あなたは、初めての子どもを妊娠・出産したときに、どのようなことを考えましたか。

(男性に) あなたの配偶者が、初めての子どもを妊娠・出産したときに、あなたはどのようなことを考えましたか。この中から最も近いものを3つまで選んでください。(3 M.A.)

- 1 子どもが生まれてくる喜びについて
- 2 親になることの自覚について
- 3 出産にかかる金銭的費用について
- 4 出産に伴い自分の仕事をどのように調整するかについて
- 5 産前産後に、誰かに家事や子どもの世話を手伝ってもらえるのかについて
- 6 陣痛や分娩時の痛みについて
- 7 子どもが病気や障害をもって生まれてくる可能性について
- 8 母体の体調について
- 9 その他(具体的に)
- 10 特に何も考えなかった
- 11 わからない

自分又は配偶者が初めての子どもを妊娠・出産したときに、どのようなことを考えたか聞いたところ、「子どもが生まれてくる喜びについて」(76.4%)が最も高く、次いで「親になることの自覚について」(60.9%)、「子どもが病気や障害をもって生まれてくる可能性について」(41.9%)などとなっている。

各国比較でみると、いずれの国も「子どもが生まれてくる喜びについて」、次いで「親になることの自覚について」の順に多くなっている(表2-3)。

表2-3

(%)

順位 国名	1	2	3	4	5
日本 721	子どもが生まれてくる喜びについて 76.4	親になることの自覚について 60.9	病気や障害をもつ可能性について 41.9	出産にかかる金銭的費用について 16.2	陣痛や分娩時の痛みについて 16.1
韓国 606	子どもが生まれてくる喜びについて 87.6	親になることの自覚について 66.4	病気や障害をもつ可能性について 43.0	陣痛や分娩時の痛みについて 25.5	母体の体調について 22.2
アメリカ 633	子どもが生まれてくる喜びについて 79.8	親になることの自覚について 51.5	陣痛や分娩時の痛みについて 23.5	病気や障害をもつ可能性について 19.7	仕事をいかに調整するかについて 19.6
フランス 601	子どもが生まれてくる喜びについて 84.3	親になることの自覚について 63.0	病気や障害をもつ可能性について 29.7	陣痛や分娩時の痛みについて 24.3	仕事をいかに調整するかについて 9.8
スウェーデン 621	子どもが生まれてくる喜びについて 79.4	親になることの自覚について 74.9	病気や障害をもつ可能性について 38.2	母体の体調について 14.3	陣痛や分娩時の痛みについて 11.3

(6) 一人っ子として育つことについて

【全員に】

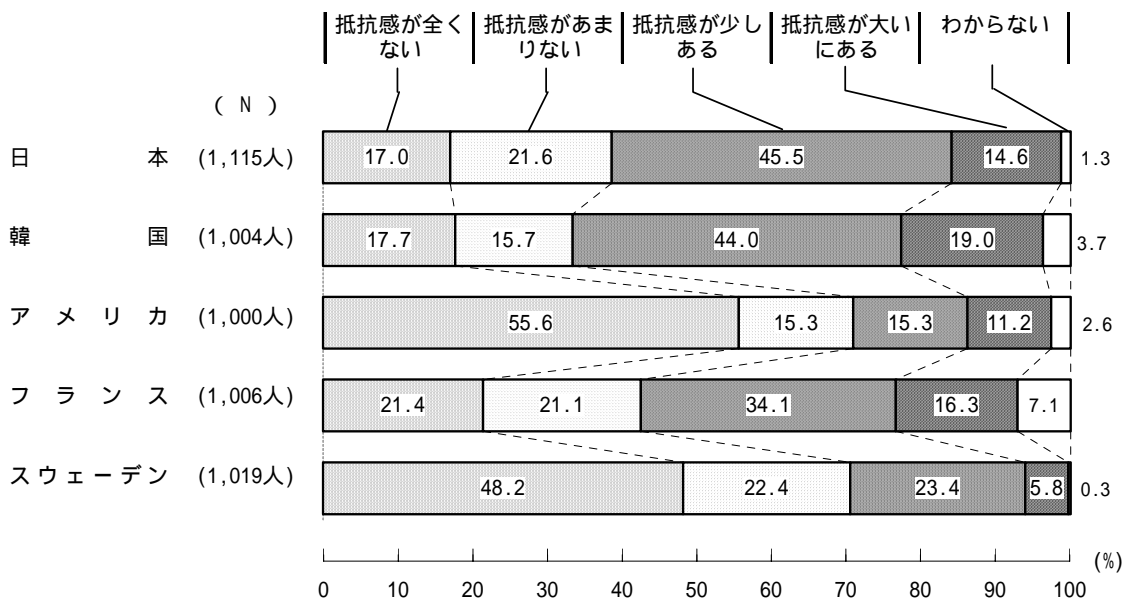
問 21 [カード 18] 一般的に、子どもが、きょうだいのいない「ひとりっ子」として育つことについてどう思われますか。この中からあなたの考えに近いものを、1つだけ選んでください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 抵抗感が全くない | 4 抵抗感が大いにある |
| 2 抵抗感があまりない | 5 わからない |
| 3 抵抗感が少しある | |

一般的に、子どもが、きょうだいのいない「ひとりっ子」として育つことについてどう思うか聞いたところ、「抵抗感が少しある」(45.5%)と「抵抗感が大いにある」(14.6%)を合わせた『抵抗感がある』が60.1%を占め、「抵抗感が全くない」(17.0%)と「抵抗感があまりない」(21.6%)を合わせた『抵抗感がない』(38.6%)を上回っている。

各国比較でみると、日本と同じく『抵抗感がある』傾向は、韓国(63.0%)、フランス(50.4%)で、逆に『抵抗感がない』傾向は、アメリカ(70.9%)、スウェーデン(70.6%)となっている(図2-6)。

図 2 - 6



3 婚外子について

(1) 婚外子を持つことに対する考え方

問 22〔カード 18〕あなたは、結婚していないカップルが、子どもをもつことに対して、どのように感じますか。この中からあなたの考えに近いものを、1つだけ選んでください。

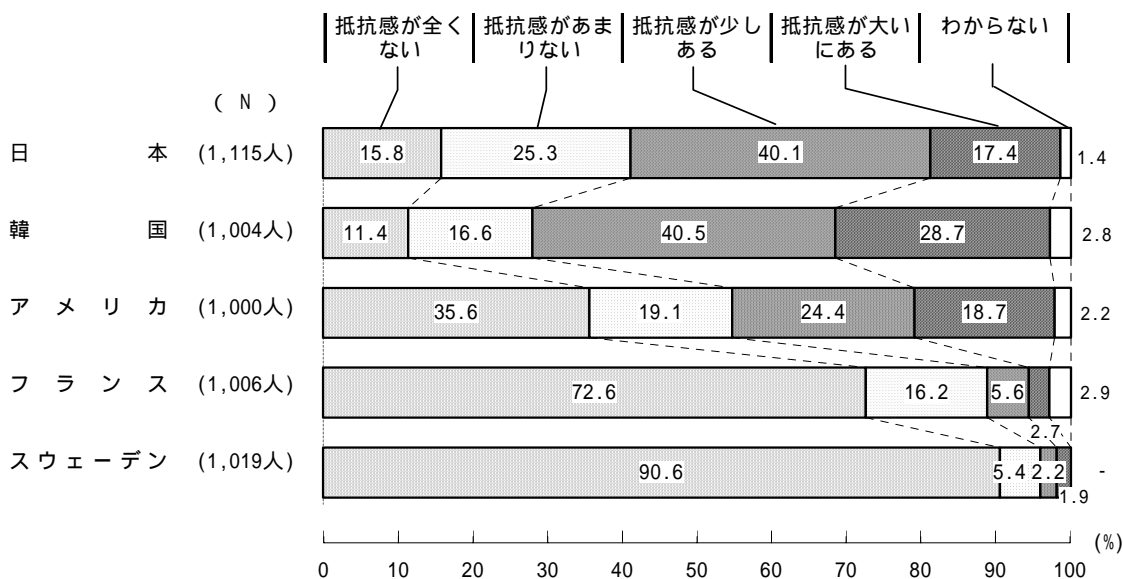
- | | |
|-------------|-------------|
| 1 抵抗感が全くない | 4 抵抗感が大いにある |
| 2 抵抗感があまりない | 5 わからない |
| 3 抵抗感が少しある | |

結婚していないカップルが、子どもをもつことに対して、どのように感じるか聞いたところ、日本では、「抵抗感が少しある」(40.1%)と「抵抗感が大いにある」(17.4%)を合わせた『抵抗感がある』が57.5%を占め、「抵抗感が全くない」(15.8%)と「抵抗感があまりない」(25.3%)を合わせた『抵抗感がない』(41.1%)を上回っている。

各国比較でみると、韓国では、日本と同じく『抵抗感がある』(「抵抗感が少しある」+「抵抗感が大いにある」)が69.2%と、『抵抗感がない』(「抵抗感が全くない」+「抵抗感があまりない」)を上回っている。

一方、スウェーデンでは、『抵抗感がない』が96.0%と極めて高く、フランス(88.9%)アメリカ(54.7%)でも『抵抗感がない』が『抵抗感がある』を上回っている。(図2-7)

図2-7



(2) 婚外子を持つことへの差別や偏見の有無

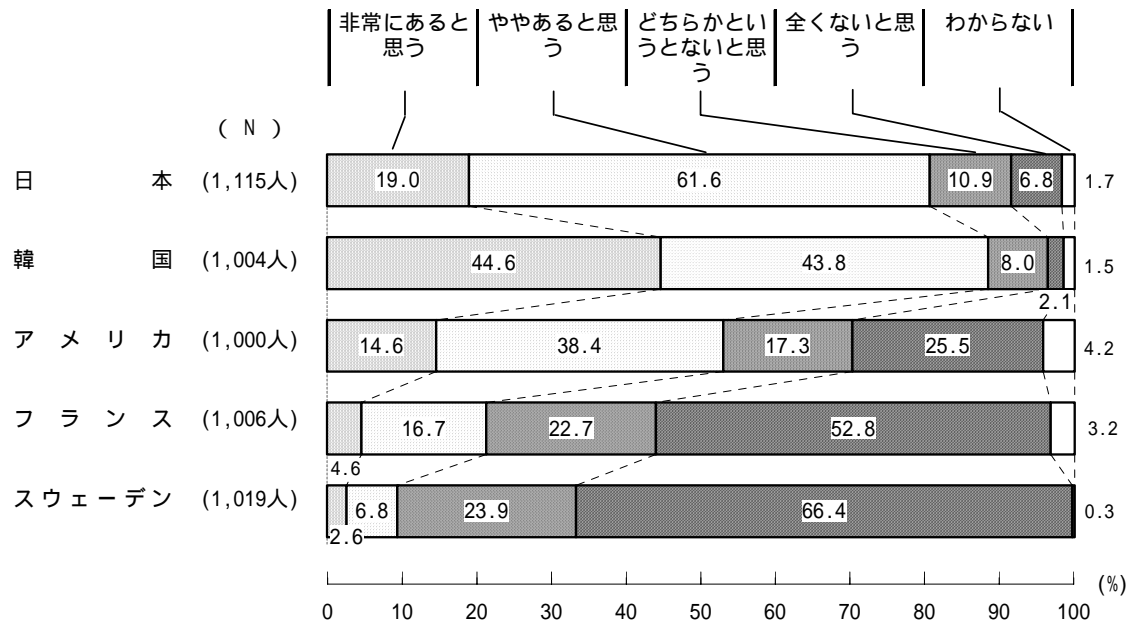
問 23 [カード 19] 結婚していないカップルが子どもをもつことに対して、社会的な差別や偏見があると思いますか。この中からあなたの考えに近いものを、1つだけ選んでください。

- 1 非常にあると思う
- 2 ややあると思う
- 3 どちらかというとないと思う
- 4 全くないと思う
- 5 わからない

結婚していないカップルが子どもをもつことに対して、社会的な差別や偏見があると思うか聞いたところ、「非常にあると思う」(19.0%)と「ややあると思う」(61.6%)を合わせた『あると思う』(80.6%)が高率を占め、「どちらかというとないと思う」(10.9%)と「全くないと思う」(6.8%)を合わせた『ないと思う』(17.7%)を大きく上回っている。

各国比較でみると、日本と同じく『あると思う』傾向は、アメリカ(53.0%)、韓国(88.4%)で、逆に『ないと思う』傾向は、スウェーデン(90.4%)、フランス(75.5%)となっている(図2-8)。

図 2 - 8



(3) いわゆる「できちゃった結婚」への考え方

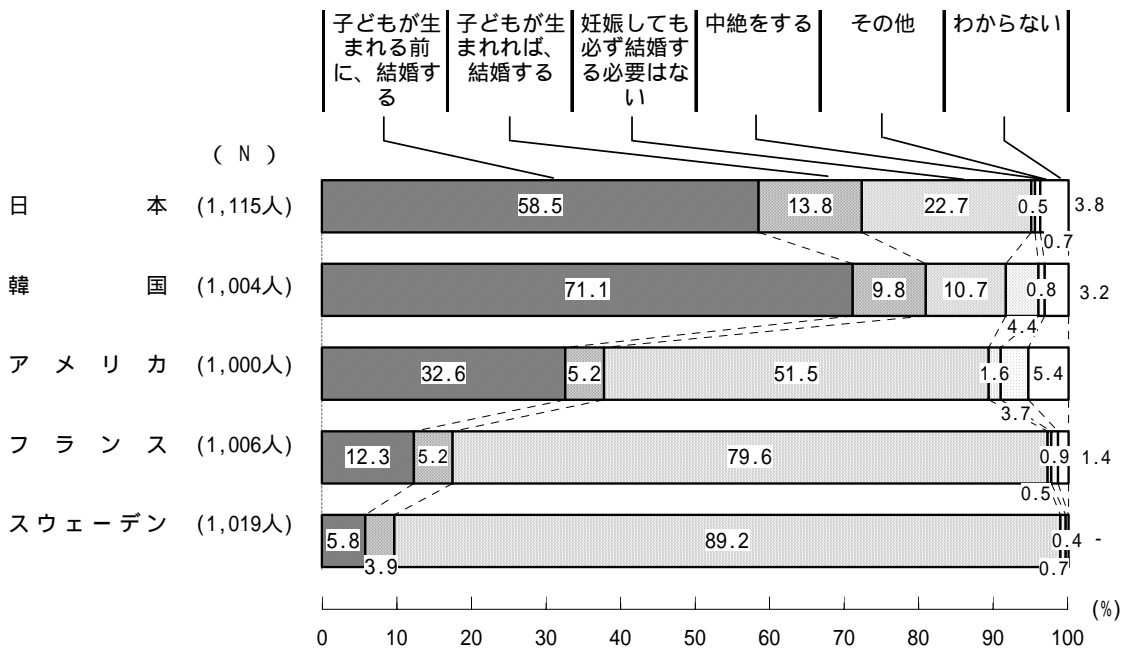
問 24 [カード 20] 一般的に、結婚していないカップルの中で、もし妊娠が判明した場合、どのようにしたらよいと思いますか。この中からあなたの考えに近いものを、1つだけ選んでください。

- 1 子どもが生まれる前に、結婚する
- 2 子どもが生まれれば、結婚する
- 3 妊娠が判明しても必ずしも結婚する必要はない
- 4 中絶をする
- 5 その他(具体的に)
- 6 わからない

一般的に、結婚していないカップルの中で、もし妊娠が判明した場合、どのようにしたらよいと思うか聞いたところ、「子どもが生まれる前に、結婚する」(58.5%)が最も高くなっている。

各国比較でみると、日本と同じく「子どもが生まれる前に、結婚する」が最も高いのは韓国(71.1%)のみで、他は「妊娠が判明しても必ずしも結婚する必要はない」が、アメリカ(51.5%)、スウェーデン(89.2%)、フランス(79.6%)で最も高くなっている(図2-9)。

図 2 - 9



4 避妊について

避妊は、男性・女性のどちらが主体的に取り組むのか

問 25 〔カード 21〕避妊は、男性、女性のどちらが、主体的にするものだと思いますか。この中からあなたの考えに近いものを、1つだけ選んでください。

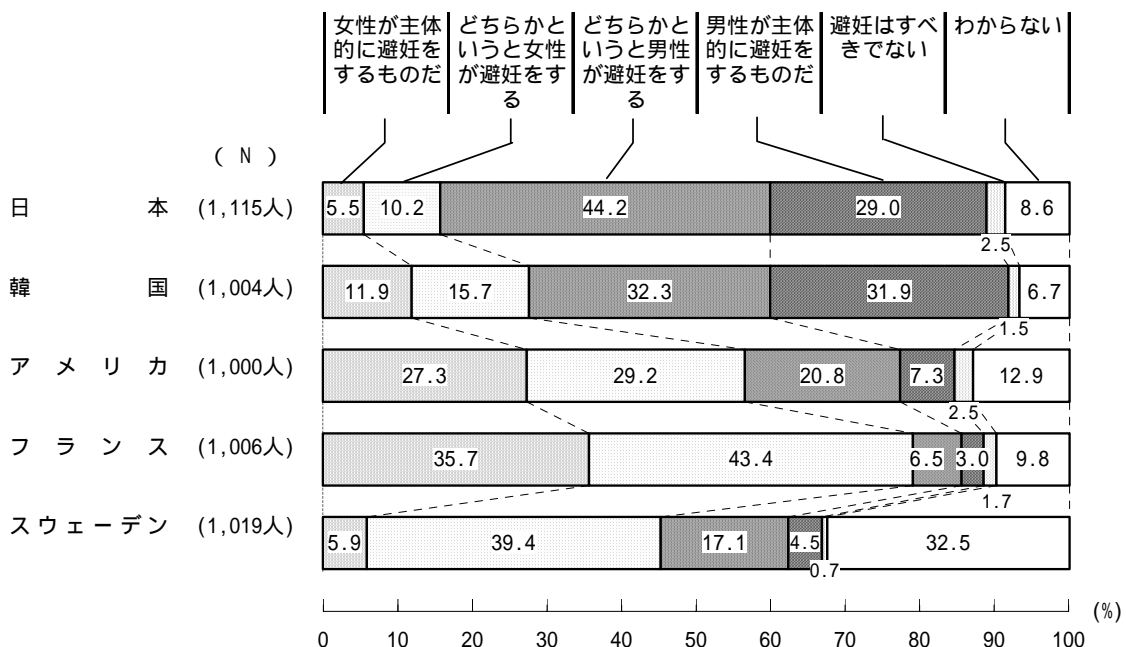
(調査員注：避妊とは、妊娠を避けるために男性または女性が行う処置や方法をいう。)

- 1 女性が主体的に避妊をするものだ
- 2 どちらかという、女性が主体的に避妊をするものだ
- 3 どちらかという、男性が主体的に避妊をするものだ
- 4 男性が主体的に避妊をするものだ
- 5 避妊はすべきでない
- 6 わからない

避妊は、男性、女性のどちらが、主体的にするものだと思うか聞いたところ、「どちらかという、男性が主体的に避妊をするものだ」(44.2%)と「男性が主体的に避妊をするものだ」(29.0%)を合わせた『男性主体』が73.2%と高く、「女性が主体的に避妊をするものだ」(5.5%)と「どちらかという、女性が主体的に避妊をするものだ」(10.2%)を合わせた『女性主体』(15.7%)を大きく上回っている。

各国比較でみると、日本と同じ『男性主体』の傾向は韓国(64.2%)のみで、他は『女性主体』の傾向で、アメリカ(56.5%)、スウェーデン(45.2%)、フランス(79.1%)となっている(図2-10)。

図2-10



5 中絶について

望まない妊娠についての考え方

問 26 〔カード 22〕女性が望まない妊娠をしてしまった場合、どのようにすべきと思いますか。この中からあなたの考えに近いものを、1つだけ選んでください。

- 1 理由は何であれ、妊娠した以上生むべきである
- 2 身体上の理由から母体の健康を著しく害するおそれがある場合は、中絶が認められるべきである。
- 3 2の理由に加えて、経済的理由から母体の健康を著しく害するおそれがある場合は、中絶が認められるべきである。
- 4 そもそも中絶は女性の権利として認められるべきである
- 5 その他（具体的に ）
- 6 わからない

女性が望まない妊娠をしてしまった場合、どのようにすべきと思うか聞いたところ、「身体上の理由から母体の健康を著しく害するおそれがある場合は、中絶が認められるべきである」(32.6%)、「2の理由に加えて、経済的理由から母体の健康を著しく害するおそれがある場合は、中絶が認められるべきである」(33.3%)、「そもそも中絶は女性の権利として認められるべきである」(16.1%)となっており、これらを合わせた『中絶容認』が82.1%を占めている。

各国比較でみると、『中絶容認』はスウェーデン(94.7%)で最も高く、アメリカ(63.9%)で最も低くなっている(図2-11)。

図2-11

